

2025 年 4 月 18 日

宇城市議会議長 様

会派名 新志会
 代表者名 石川 洋一 (印)

視察報告書

政務活動費により視察を実施いたしましたので、下記のとおり報告します。

記

視察日時	令和6年10月28～30日	
視察場所	北海道小樽市、北広島市	
参加者氏名	石川 洋一	田中 美君
	豊田紀代美	
	福田 良二	
	嘉志田茂己	
目的・経緯	1.北広島市視察 北海道ホールウェイジ 北広島市のまちづくり	
概要・所感	ホールウェイジ建設地	
	人口:56,576人(令和6年9月30日現在)	
	世帯数:28,388世帯()	
	面積:119.05km ²	
	きたひろし総合運動公園予定地での新球場 (ホールウェイジ)建設、約32ha	
	平成14年(2002年) 室内練習場の誘致に於いて、ファイトースと初めて	

(裏面に続く)

接点を

(2)

・平成27年10月(2015年)

官民連携による総合運動公園整備の検討調査

・平成27年12月(2015年)

7000人の試合が可能な野球場について、ファイブスと意見交換

・平成28年5月(2016年)

ファイブスの新球場構想が報道

・平成28年6月(2016年)

平成28年 第2回定例会で新球場誘致について市長行政報告

ファイブス球団事務所訪問、誘致活動を行って行く旨の申し入れ

・平成28年12月(2016年)

日本ハムとファイブスより新球場構想の調査検討開始を発表

北広島市からファイブスへ提案書を提出

・平成30年3月(2018年)

「きたひろしま総合運動公園予定地」がボールパーク候補地として、内定をいただく。

・平成30年10月3日(2018年)

きたひろしま総合運動公園予定地での新球場(ボールパーク)建設が正式に決定

・令和2年4月13日(2020年)

新球場「ES CON FIELD HOKKAIDO」の建設工事に着工

・令和5年1月(2023年)

(令和5年3月30日閉幕)

・新球場「ES CON FIELD HOKKAIDO」竣工

概要・所感	何十年と先を見越した北広島市のまちづくりは素晴らしい。 毎年少く400人減っている人口が反転して増加している。 アベノミジが北海道へ年間1,000億円の経済効果をもたらして観光業振興や人口減少防止の反転といった社会的価値を向上させた。 ①経済的価値 北広島市への経済効果 北海道への経済効果 年間500億円超 年間1,000億円超 ②社会的価値 人口減少防止への反転 北海道全体の観光業振興 商業により96万人が道外から訪問
主な質疑応答	年間350万人のアベノミジ乗場者がありますが、この何割かは宿泊されるわけでは、宿泊施設は足りていますか？ 初答 商業施設しかないのでホテルは足りていない。このままでは、このホテル建設の誘致を活動を行っていく。

年 月 日

宇城市議会議長 様

会派名

代表者名

印

視察報告書

政務活動費により視察を実施いたしましたので、下記のとおり報告します。

記

視察日時		
視察場所		
参加者氏名		
目的・経緯	(人口減対策について) 小樽市 ひと暮らしサポートセンターについて	
概要・所感	人口 : 103,698人 2025.3.30	
	世帯数: 60,053世帯	
	毎年約2,000人程減少している。	
	小樽市が2期 総合戦略(R2~26年)	
	基本目標、1. 小樽市にしっかりと住み安心に過ご できるようにする。 ①地場産業の発展と中小企業、小規 模事業者の経営安定化。	

(裏面に続く)

概要・所感	(2) 産業承継、老己業支援と企業誘致による雇用の確保。
	(3) 多様な人材の就労支援と地元就職の促進
	基本目標 2. 小樽市への新しい人の流れをつくる
	(1) 小樽市の歴史、文化と地域資源を活かした観光振興 (2) 観光客受け入れ態勢の整備 (3) 移住に因る総合的な取組
	基本目標 3. 若い世代の妊娠、出産、子育ての希望をかなえ、未来の創り手を育てる。
	(1) 子供を産み育てやすい環境づくり。
	(2) 充実した教育環境の整備
	基本目標 4. 誰れもが活躍できる地域社会をつくり、安心なくらしを守るために、地域とともに、地域と地域を連携する。
	(1) 誰れも安心に暮らせるまちづくり
	(2) 誰れも活躍できる地域社会づくり
	(3) 誰れも健康的に暮らせるまちづくり
	(4) 広域連携の推進
	毎年約2000人人口が減少している状況などの相当な危機感をもたれて小樽市が2期総合戦略を推進している。
主な所感・感想	毎年800万人の観光客が来られており
	そのうち1割の客が宿泊されている。宿泊施設が足りず、1世の宿泊客のホテリに宿泊されている。ホテリの誘致。
	2026年は宿泊税が2億円に上ると予想されている。







令和7年4月2日

宇城市議会議長 様

会派名 新志会
代表者名 石川 洋一



視察報告書

政務活動費により視察を実施いたしましたので、下記のとおり報告します。

記

視察日時	令和7年3月4日～5日	
視察場所	国会議員（熊本県選出）	
参加者氏名	石川 洋一	津志田 幸紀
	豊田 紀代美	林田 和
	嘉古田 茂己	
	田中 美君	
目的・経緯	目的・経緯 本市における問題点解決を国会議員へ陳情	
概要・所感	陳情内容 概要 新志会は、地域の持続可能な発展と住民生活の安定に向けて、以下の5つの課題について国の支援を要望しています。 1. 熊本天草幹線道路の整備 整備中の宇土三角道路の一部区間（みすみIC～波多IC）では、多くの住宅の立退きが必要で、地域中心部の消失が懸念されている。住民の不安解消のため、代替地の確保や移転支援に国の協力を求める。 2. 国道3号の四車線化 交通量の増加により松橋町豊福以南で慢性的な渋滞が発生して	

（裏面に続く）

概要・所感	おり、地域発展の妨げとなっている。交通対策として早期の四車線化を要望。 3. 農業用水の確保 地下水の塩水化により、特に施設園芸用の良質な水の確保が困難な状況。営農拡大計画を踏まえ、安定した農業用水確保のための抜本的対策を求める。 4. 給食費の完全無償化 政府による小学校給食費無償化方針を歓迎しつつ、財政格差による自治体間の不平等解消のため、中学校も含めた国費による完全無償化の実現を要請。 5. 三角港の再活性化 地域の過疎化対策として、三角港への海上自衛隊艦船の誘致や、かつて運航されていたフェリーの再開支援を要望。観光振興や港湾の活用による地域再生を図りたい。
主な質疑応答	熊本天草幹線道路の整備について Q：三角町の中心部外への経路変更はできないのか？ A：整備予定の「みすみ IC～波多 IC」区間において、80 戸以上の住宅が立退き対象となっており、三角町の中心的な居住エリアにあたるため、まちの中核機能やコミュニティの維持が危ぶまれています。現在、移転先や代替地の確保について調整中ですが、国・県の支援が不可欠です。住民の不安を軽減するためにも、丁寧な説明が必要。 国道 3 号 松橋町豊福以南の四車線化について Q：過去に交差点改良は行われているのでは？ A：一部交差点の改善は進められましたが、根本的な渋滞解消には至っておらず、早期の全体的な四車線化が必要です。 農業用水の確保について Q：これまで以上の対策を実施できないか？ A：県の事業で雨水貯留施設や給水スタンドの整備が進められましたが、施設園芸の拡大には安定的かつ良質な水源の確保が不可欠です。国の支援による抜本的対策を希望したい。

三角港の自衛隊艦船誘致・フェリー再開について

Q：なぜ三角港への海上自衛隊艦船の誘致が必要なのですか？

A：三角港は良港であり、かつては物流・交通の拠点として機能していました。現在の港湾機能の有効活用と、地域振興・安全保障への貢献を両立させる手段として艦船誘致を考えています。

Q：フェリーの再開は現実的なのですか？

A：かつて撤退した背景はありますが、現在は観光需要やインバウンドが増加傾向にあり、再開による経済波及効果が見込まれます。国の支援によって運航再開の実現可能性が高まります。

視察の様子
(写真等)





令和 7 年 4 月 2 日

宇城市議会議長 様

会派名 新志会
代表者名 石川 洋一



視察報告書

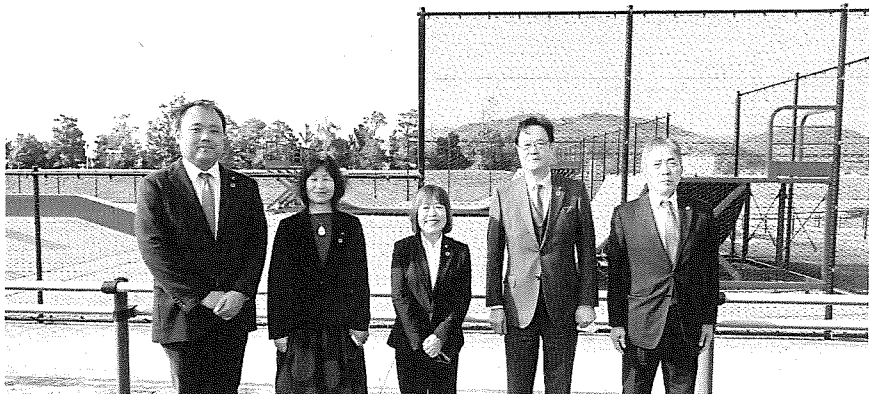
政務活動費により視察を実施いたしましたので、下記のとおり報告します。

記

視察日時	令和 7 年 3 月 28 日～29 日	
視察場所	長崎県諫早市、大村市 「アーバンスポーツ」 施設	
参加者氏名	石川 洋一	林田 和
	豊田 紀代美	
	嘉古田 茂己	
	田中 美君	
目的・経緯	目的 本市におけるアーバンスポーツ施設の発展のため 経緯 長崎県には 2 施設行政が携わっているアーバンスポーツ施設があり 本市への導入可能性を検討するため	
概要・所感	概要 アーバンスポーツとは都市型スポーツを指しています。都市型スポーツとは、BMX、スケートボード、パルクール、インラインスケート、ブレイクダンス、ダブルダッチ等です。これらのスポーツは特に広いスタジアムやアリーナのような大型施設を必要とせず、狭いスペースでも簡単に始めることが可能です。また、1 人から自由に始めたり辞めたりできるため自由度も高いです。自ら環境や指導者を選ぶことができ、非常に柔軟な特性を持っています。これらのスポーツは日本の部活動や従来のスポーツクラブの枠組みにとらわれない「ピラミッド型」や「体育会系」とは異なるタイプの活動です。加えて、他のスポーツとの掛け持ちがしやすく、ラ	

(裏面に続く)

概要・所感	イフスタイルに合わせて楽しめる生涯スポーツとしての側面もあります。特にプロへの道も開かれているため、才能を活かす機会が多いのも魅力となっています。 所感 大村市：コミュニティパーク グルーンおおむら 本施設は、ボートレース大村の敷地内に 2022 年に整備された公共スポーツパークであり、約 1,000 ㎡のスケートボードパークおよび高さ 5m 超のボルダリングウォールを有している。利用料は無料で、県内外からの来訪者も多く見られた。視察当日も若者を中心に多くの利用者が集い、互いに技術を共有しながら活動している様子が印象的であった。世代を越えた交流が生まれる場として、教育的・社会的意義も高いと評価できる。 諫早市：長崎県立総合運動公園 本施設は多目的運動公園であり、主に陸上競技場やテニスコート等が整備されている。専用のアーバンスポーツ施設は設けられていないものの、芝生広場やちびっこ広場でスケートボードやローラースケートを楽しむ子どもたちの姿が見受けられた。専用施設がなくとも、多用途スペースを活かした柔軟な活用が可能であることが確認された。 今回の視察を通じて、アーバンスポーツ施設は単に運動機会を提供するだけでなく、地域の賑わいや若者の居場所づくり、防犯環境の整備といった多面的な価値を有していることを実感した。今後本市においても、既存の公共施設の利活用や新規整備を含めた検討を行い、地域に根ざしたスポーツ文化の推進に寄与することが望まれる。
--------------	---

主な質疑応答	アーバンスポーツは若者向けの印象ですが、高齢者や子育て世代にも利点がありますか？ 実際に視察した大村市の施設では、スケートボードやボルダリングのエリアと併設して芝生広場や遊具があり、親子連れや高齢者の散歩など、多世代が同じ空間で過ごせる設計になっていました。特定の世代に偏らない「交流の場」として機能していました。 利用者の安全管理はどうなっていますか？事故のリスクは？ 大村市の施設では、ヘルメット・プロテクターの着用推奨や注意喚起の掲示など基本的な対策がされていました。また、利用者同士で声を掛け合い安全を確保する文化も育っており、リスク軽減に役立っていました。ただし、管理体制の整備は今後の課題であり、導入にあたっては地域に応じたルールづくりが必要です。
視察の様子 (写真等)	諫早市  

大村市

